

問一 「観心本尊抄」(背景・大意、第1章～第10章) から問いに答えなさい。

一、本抄が執筆された年月日、および正式な題号を書きなさい。

二、第1章で、日蓮大聖人は一念三千の典拠として、イ 第五の文の一節を掲げられています。

「夫れ [] に十法界を具す一法界に又十法界を具すれば百法界なり一界に三十種の世間を具すれば百法界に即三千種の世間を具す、此の三千・一念の心に在り若し心無んば而已介爾も心有れば即ち [] を具す乃至所以に称して不可思議境と為す意此に在り」

イ、イ [] には書名が入ります。正しい言葉を書きなさい。

ロ、[] に入る正しい言葉を書きなさい。

三、第4章の御文について答えなさい。

「天台の難信難解に二有り一には [] の難信難解二には観門の難信難解なり」

イ、[] に入る正しい言葉を書きなさい。

ロ、傍線口「観門の難信難解」は、ここでは具体的にどのようなことを指していますか。説明しなさい。

四、第5章で大聖人は、「我が己心を観じて十法界を見る是を [] と云うなり、譬えば他人の六根を見ると雖も未だ自面の六根を見ざれば自具の六根を知らず [] に向うの時始めて自具の六根を見るが如し」と仰せです。[] に入る正しい言葉を書きなさい。

五、第8章で、私たちの心に六道が具わっていることを述べた御文を書きなさい。

六、第10章で大聖人は、人界に仏界を具していることの現証として三つの例を挙げられています。そのうちの二つを書きなさい。

解答例

〔問一〕

一、執筆された年月日……文永10年(1273年)4月25日

正式な題号……如来滅後五百歳始観心本尊抄

二、イ、摩訶止観

ロ、(順に)一心 三千

三、イ、教門

ロ、非情に色心の二法・十如是が具わっていることが難信難解であること

四、(順に) 観心 明鏡

五、曠るは地獄・食るは餓鬼・癡は畜生・詭曲なるは修羅・喜ぶは天・平かなるは人なり

六、「堯舜等の聖人の如きは万民に於て偏頗無し人界の仏界の一分なり」「不軽菩薩は所見の人に

問二 「観心本尊抄」(第11章～第16章) から問いに答えなさい。

一、第13章で「但し諸経と法華との相違は経文より事起つて分明なり未顕と已顕と証明と舌相と [] の成不と始成と [] と等之を顕わす」と、法華経と爾前経との間の根本的な相違を示されています。[] に入る正しい言葉を書きなさい。

二、第14章についての文章を読み、イ、ロの問いに答えなさい。

大聖人は「夫れ仏滅後に至つて一千八百余年・三国に経歴して但三人のみ有つて始めて此の正法を覚知せり」と仰せになり、竜樹や天親は正法を心の中に知っていたが、外に向かつて言わなかったと述べられています。

イ、傍線イ「但三人」とは誰のことか、名前を書きなさい。

ロ、傍線ロの理由を本抄の趣旨に沿って書きなさい。

三、第15章の「詮ずる所は [] に非ずんば有情の成仏・木画二像の本尊は有名無実なり」の御文の [] に入る正しい言葉を書きなさい。

四、釈尊のような偉大な仏が凡夫の劣心に具わることが信じられない。との疑問に対する答えとして、大聖人は第16章で「受持即観心」の法門を明かされました。その御文を書きなさい。

五、「受持即観心」によって己心に顕れる四聖について、大聖人は第16章で法華経の経文を引用して示されています。次のイ～ハの御文が、それぞれの経文と対応しているか、後ろの(経文) 1～3から選び、番号を書きなさい。

イ、我等が己心の声聞界なり ロ、我等が己心の菩薩等なり ハ、我等が己心の釈尊は五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり

1、「然るに我実に成仏してより已来・無量無辺百千万億那由佉劫なり」

2、「無上宝聚・不求自得」

3、「我本菩薩の道を行じて・成ぜし所の寿命・今猶未だ尽きず・復上の数に倍せり」

於て仏身を見る」「悉達太子は人界より仏身を成ず」のいずれか

〔問二〕

一、(順に) 二乗 久成

イ、釈尊 天台(智者大師) 伝教
ロ、説くべき時ではなかったから

三、一念三千の仏種

四、釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具足す我等此の五字を受持すれば自然に彼の因果の功徳を譲り与え給う

五、イ、2

ロ、3

ハ、1

〔経文〕

問三 「観心本尊抄」(第17章〜第31章) から問いに答えなさい。

一、第20章から第25章では、釈尊をはじめ三世十方の仏が説こうとした最も大切な教えがどこに説かれているかを「五重三段」を通して明かされています。

イ、「五重三段」のそれぞれの正宗分を述べなさい。

ロ、大聖人は「在世の本門と末法の始は一同に純円なり但し彼は [] 此れは種なり彼は一品二半此れは但 [] なり」と仰せになっています。 [] に入る御文を書きなさい。

二、第27章では、寿量品の「良医病子の譬え」に説かれている「遣使還告」「是好良薬」について論じられています。それぞれが示している、末法弘通の「人」と「法」を書きなさい。

三、次の御文の [] に入る正しい言葉を書きなさい。

「此の四菩薩 [] を現する時は賢王と成つて愚王を誡責し撰受を行ずる時は僧と成つて [] を弘持す」(第29章)

「天晴れぬれば地明かなり [] を識る者は世法を得可きか」(第30章)

[] を識らざる者には仏・ [] を起し五字の内に此の珠を裏み末代幼稚の頭に懸けさしめ給う」(第31章)

問四 「兄弟抄」から問いに答えなさい。(①)〜(⑦)の数字は、「大白蓮華」6月号の教材に基づいています)

一、(兄弟抄①) 冒頭で言及されている、法華経と「三世の諸仏」「十方の仏陀」の関係を、本抄で仰せの趣旨に沿って述べなさい。

二、(兄弟抄②) 本抄で「一眼の亀」「須弥山を吊り上げる蓮の糸」の譬えを通して、「値うことは難」「あひがたし」とされた「人」とは、どのような人ですか。本抄で仰せの趣旨に沿って答えなさい。

三、(兄弟抄③) 本抄では、「此は第六天の魔王が智者の「1」善人をたばらかすなり、法華経第五の巻に「悪鬼其の「2」と説かれて候は是なり」と喝破されています。さらに、たとえ等覺の菩薩であつても妙覺の功德を妨げてしまうのは、「元品の [] と申す大悪鬼」と仰せです。「1」「2」の共通の趣旨の言葉を書きなさい。また、 [] に入る正しい言葉を書きなさい。

四、(兄弟抄④) 本抄では、池上兄弟が受けている難の意味について、宿命転換の法理をふまえて、信心の錬磨であることを示され、「がうじやうにはがみをしてたゆむ心なかれ、例せば日蓮が(ロ)がごとく・すこしも・をづる心なかれ」と呼びかけられています。

イ、傍線イについて、本抄では兄弟が懸命に法華経を信じてきたので、どのようなことと仰せですか。本抄の趣旨に沿って答えなさい。

ロ、(ロ)に入る趣旨を書きなさい。

五、(兄弟抄⑥) 本抄後半で「日蓮が身に当るのみならず門家の明鏡なり謹んで習い伝えて未来の資糧とせよ」として引用された、天台大師の文を書きなさい。

六、(兄弟抄⑦) 大聖人は、兄弟たち、夫人たちが悪縁に紛動されず、苦難を乗り越えるために、「設ひ・いかなる・わづらはしき事ありとも夢になして只 [] の事のみさばくらせ給うべし」と教えられています。 [] に入る正しい言葉を書きなさい。

問五 「日蓮宗を破す」から問いに答えなさい。

一、「いかなる大善をつくり法華経を千万部読み書写し一念三千の観道を得たる人なりとも [] をだにも・せめざれば得道ありがたし」の御文の [] に入る正しい言葉を書きなさい。

二、日蓮が、世界広宣流布を推進する創価学会の破壊を企てたことは、「五逆罪」の何にあたるか、その大罪の名前を書きなさい。

三、かつて、軍国主義下にあつて、日蓮正宗と創価学会は、それぞれ神札に、どのように対処したか、書きなさい。

四、日蓮宗の誤った血脈観を、御書の御文を用いて破折しなさい。

五、僧侶を呼ばない葬儀では故人が成仏しない、などと言っている日蓮宗の邪義を、大聖人の仏法の法理に基づいて破折しなさい。

問三

一、(省略)

イ、(省略) 脱 題目の五字

二、人……地涌の菩薩
法……南無妙法蓮華経

三、(順に) 折伏 正法 法華 一念三千 大慈悲

問四

一、「三世の諸仏は此の経を師として正覚を成じ十方の仏陀は一乘を眼目として衆生を引導し給ふ」の趣旨
二、「法華経を経のごとく説く人」の趣旨
三、共通の趣旨の言葉……身に入る

四、 [] に入る言葉……無明

イ、「各各・随分に法華経を信ぜられつる・ゆへに過去の重罪をせめいだし給いて候」の趣旨
ロ、「平左衛門の尉がもとにて・うちふるまい・いゝし」の趣旨

五、行解既に勤めぬれば三障

四魔紛然として競い起る乃至随う可らず畏る可らず

六、法華経

問五

一、法華経の敵

二、破和合僧

三、日蓮正宗……神札を受けらるるに学会に申し渡した創価学会……神札を受けらるることを拒否した

四、(省略)

五、(省略)

問一 「観心本尊抄」(背景・大意、第1章〜第10章) から問いに答えなさい。

- 一、本抄はどこで執筆されましたか。地名を答えなさい。また、本抄は誰に宛てて送られたものですか。
- 二、第1章で、日蓮大聖人は一念三千の典拠として、「摩訶止観第五」の文の一節を掲げられています。

「夫れ一心に ① を具す一法界に又 ① を具すれば百法界なり一界に三十種の ② を具すれば百法界に即三千種の ② を具す、此の三千・一念の ③ に在り若し ③ 無んば而已あなげ介爾も ③ 有れば即ち三千を具す乃至所以ゆゑに称して不可思議境と為す意此に在り」

- イ、「摩訶止観」は (イ) が講述し、弟子の章安が記録した書です。(イ) に入る正しい名前を書きなさい。
- ロ、①③に入る正しい言葉を書きなさい。

三、第4章では、百界千如と一念三千の違いについて、「百界千如は有情界に限り一念三千は 〇 に亘る」と述べられています。また、天台の難信難解について、「教門の難信難解」と 〇 の難信難解があることが論じられています。

イ、〇 に入る正しい言葉を書きなさい。

ロ、傍線口「教門の難信難解」の内容として、大聖人は具体的に二つの点を挙げられています。一つは、爾前経では二乗は永遠に成仏できないと説きながら、法華経述門では「二乗作仏」を説く点です。もう一つの点は何ですか。

四、第5章で大聖人は「我が 〇 を観じて十法界を見る是を 〇 と云うなり」と仰せです。〇 に入る正しい言葉を書きなさい。

五、第9章では、私たちの生命に四聖が具足していることについて、具体的な例を挙げて説明しています。このうち、菩薩界が凡夫の生命に具わっていることを示す例として、どのようなことが挙げられていますか。

六、第10章では、人界に仏界が具足していることの現証として、「堯舜等の聖人の如きは万民に於て偏頗へんぱ無し人界の仏界の一分なり、 〇 は所見の人に於て仏身を見る 〇 は人界より仏身を成ず」と仰せです。〇 に入る正しい言葉を書きなさい。

問二 「観心本尊抄」(第11章〜第16章) から問いに答えなさい。

一、第13章で「但し諸経と法華との相違は経文より事起つて分明なり 〇 と已顕と証明と舌相と二乗の成不と始成と 〇 と等之を顕わす」と、法華経と爾前経との間の根本的な相違を示されています。〇 に入る正しい言葉を書きなさい。

二、次の文章を読み、後ろのイ、ロの問いに答えなさい。

「釈尊のような偉大な仏が凡夫の劣性に具わることが信じられない」との疑問に答えるにあたり、大聖人は第14章で、法華経が難信難解であることを示し、「三國に経歴して但三人のみ有つて始めて此の正法を覚知せり」と仰せです。そして第16章では、経文等を挙げられた後、会通を加えられ、「受持即観心」の法門を明かされます。

イ、傍線イ「但三人」とは誰のことか、名前を書きなさい。

ロ、傍線ロ「受持即観心」の法門を明かした御文を書きなさい。

三、「受持即観心」によって己心に顕れる四聖について、第16章で法華経の経文を引用して示されています。次のイ、ロの御文の 〇 に入る正しい言葉を書きなさい。

イ、「無上宝聚・不求自得」云云、我等が己心の 〇 なり」

ロ、「我等が己心の 〇 は五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり」

ハ、「上行・無辺行・淨行・安立行等は我等が己心の 〇 なり」

四、次の御文の 〇 に入る正しい言葉を書きなさい。

「詮ずる所は 〇 に非ずんば有情の成仏・木画二像の本尊は有名無実なり」(第15章)

「妙楽大師云く「当に知るべし身土一念の三千なり故に成道の時此の本理ほんりに称なづうて 〇 法界ほふまに遍あまし」等云云」(第16章)

解答例

【問一】

- 一、執筆された地名……佐渡の 一谷
- 誰に宛てて送られたか……富木常忍

二、

イ、天台

ロ、①十法界 ②世間

三、

イ、(順に) 情非情 観

ロ、爾前経と法華経述門

では「始成正覚」を説きながら、法華経本門では「久遠実成」を説くこと

四、(順に) 己心 観心

五、無願の悪人も猶妻子を慈愛す

六、(順に) 不軽菩薩 悉達太子

【問二】

一、(順に) 未顕 久成

二、

イ、釈尊 天台(智者大師) 伝教

ロ、釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具足す我等此の五字を受持すれば自然に彼の因果の功徳を譲り与え給う

三、

イ、声聞界

ロ、釈尊

ハ、菩薩

四、(順に) 一念三千の仏種 一身一念

問三 「親心本尊抄」(第17章・第31章)から問いに答えなさい。

一、第20章から第25章では、釈尊をはじめ三世十方の仏が説こうとした最も大切な教えがどこに説かれているかを「五重三段」を通して明かされています。

イ、「五重三段」のうち、「本門脱益三段」「文底下種三段」それぞれの序分、正宗分、流通分を述べなさい。

ロ、第25章では、「在世の本門」と「末法の始」を対比して、種脱相対を明かされています。このうち、教法の違いについて述べた御文を書きなさい。

二、第29章では、四菩薩が末法に出現するありさまについて論じられています。「折伏を實踐する時」「撰受を行ずる時」の具体的なありさまについて書きなさい。

三、次の御文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

「此の本門の肝心南無妙法蓮華經の五字に於ては仏猶なほ文殊薬王等にも之を付属し給わず何に況や其の已外をや但□を召して八品を説いて之を付属し給う」(第19章)

「今の遣使還告は地涌なり是好良薬とは□の肝要たる名体宗用教の□是なり」(第27章)

「□を識らざる者には仏・大慈悲を起し五字の内に此の珠を裹み□幼稚の頸に懸けさしめ給う」(第31章)

問四 「兄弟抄」から問いに答えなさい。(①～⑦の数字は、「大白蓮華」6月号の教材に基づいています)

一、(兄弟抄①) 本抄は、信心の正念場に立たされた池上兄弟に対し、法華經を信じる本質的な意義から書き起こされています。その冒頭の一節を書きなさい。

二、(兄弟抄③) 本抄では、「法華經を信する人の・をそるべきものは賊人・強盜・夜打ち・虎狼・師子等よりも当時の蒙古のせめよりも法華經の行者を(イ) 人人なり」と仰せです。そして、この「をそるべきもの」を支配している根源について「此の世界は(ロ) □ (の所領なり」と仰せであり、妻や子、父母や国王の身に入ることがあると言及されています。イ、ロに入る言葉を書きなさい(趣旨でよい)。

三、(兄弟抄④) 本抄では、「各各・随分に(イ)・ゆへに過去の重罪をせめいだし給いて候」と述べられ、兄弟が受けている難の意味について、諸天善神が兄弟の信心が本物かどうかを試しているのであり、生命の鍛錬であることを教えられています。そして、[□]平左衛門尉の前での大聖人の御振る舞いを通して、難に当たつての信心の姿勢を強調されています。

イ、イに入る言葉を書きなさい(趣旨でよい)。

ロ、傍線口について、本抄では、どのように述べられていますか。

四、(兄弟抄⑤) 本抄では、釈尊と父・浄飯王のエピソードに触れ、真実の孝養について示されています。その御文を書きなさい。

五、(兄弟抄⑥) 本抄後半で、三障四魔出来の原理が記された『摩訶止観』の第5巻の一節を踏まえて、大聖人はどのように仰せですか。

六、(兄弟抄⑦) 池上兄弟とその夫人たちが悪縁に紛動されず、苦難を乗り越えるために、大聖人は「心の師とは・なるとも心を師とせざれ」との六波羅蜜經の文を引いて、どのように示されていますか。その御文を書きなさい。

問五 「日頭宗を破す」から問いに答えなさい。

一、「日蓮と(イ) (ならば地涌の菩薩たらんか」との仰せ通りに広宣流布を推進してきた創価学会を破門した日頭宗は、五逆罪で言えば、(ロ) □ (にあたります。私たちは「如かず彼の万祈を修せんよりは此の(ハ) □ (を禁ぜんには」との精神で、日頭宗を破折するのです。イ、ハに当てはまる正しい言葉を書きなさい。

二、日頭宗の法主信仰の誤りを、御書の御文を用いて破折しなさい。

三、僧侶を呼ばない葬儀では故人が成仏しない、などと言っている日頭宗の邪義を、大聖人の仏法の法理に基づいて破折しなさい。

問三

一、(省略)

ロ、彼は一品二半此れは但題目の五字なり

二、折伏を實踐する時……「賢王と成つて愚王を誡責し」の趣旨

撰受を行ずる時……「僧と成つて正法を弘持す」の趣旨

三、(順に) 地涌千界 寿量品 南無妙法蓮華經 一念三千 末代

問四

一、夫れ法華經と申すは八万法藏の肝心十二部經の骨髓なり、三世の諸仏は此の經を師として正覺を成じ十方の仏陀は一乘を眼目として衆生を引導し給ふ

二、イ、なやます

ロ、第六天の魔王

イ、法華經を信ぜられつる

ロ、「日蓮が平左衛門の尉がもとにて・うちふるまひ・いるしがごとく・すこ

しも・をづる心なかれ」の趣旨

四、一切は・をやに随うべきにてこそ候へども・仏になる道は随わぬが孝養の本にて候か

五、此の釈は日蓮が身に当るのみならず門家の明鏡なり謹んで習い伝えて未来の資糧とせよ

六、設ひ・いかなる・わづらはしき事ありとも夢になして只法華經の事のみさはくらせ給うべし

問五

一、イ、同意

ロ、破和合僧

ハ、一凶

二、(省略)

三、(省略)